

投資事業評価調書(新規)

| | | | | | |
|-----|-------|---------------------|-------------------------|----|----------------------|
| 課室名 | 道路保全課 | 記入責任者職氏名 (担当者氏名) | 道路保全課長 國塚 康平 (藤田 宜久) | 内線 | 4 3 8 9 (4 3 9 9) |
|-----|-------|---------------------|-------------------------|----|----------------------|

| 事業種目 | 交通安全 施設整備 | 事業名 | 事業区間 | 総事業費 | 約2.6億円 |
|---|---|---------------------------|--|---------|--------|
| | | 特定交通安全施設等整備事業 (主)多可柏原線 | 丹波市山南町富田 | うち用地補償費 | 約1.2億円 |
| 所在地 | | | | 着工予定年度 | 完成予定年度 |
| 丹波市山南町富田 | | | | 平成19年度 | 平成22年度 |
| 事業目的 | | | 事業内容 | | |
| 交通安全対策 ・小中学校の通学路であり、自転車利用者、歩行者交通量が多く人と車の輻輳による危険性の高い当路線において、歩道の整備を行い、歩車分離を図ることで交通安全対策を推進する。 | | | 歩道整備 L = 8 5 0 m W = 2 . 0 m (2 . 5) m (片側) 現 況 歩道なし (負担割合 国1/2 県1/2) | | |
| 評価視点 | | | | | |
| (1)必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ・自動車交通量、歩行者・自転車交通量が多い。 (自動車6,096台/日、歩行者67人/日、自転車45台/日) ・過去5年間に自転車・歩行者の交通事故(5件)が発生している。 ・死傷事故率(111.1人/億台km) ・大型車混入率50.1% ・住民参加による交通安全総点検を実施し、歩道の必要性が提案されている。 ・小野尻トンネルにつながる設計速度50kmの当該路線においては、縦断勾配のきつい区間であり速度が出やすく朝の通学時においては通学児童が非常に危険な状態にある。 ・和田小学校の通学路に指定され、和田中学の生徒が自転車通学路として利用している。 ・歩道の連続性の確保 (前後の整備状況・・起点側：集落へ入る市道、終点側：既設歩道 W=3.0m) | | | | |
| (2)有効性・効率性 | <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者・自転車の安全が確保され、投資効果が期待できる。 ・円滑な事業執行に向けて、地元の協力体制等が整っている。 | | | | |
| (3)環境適合性 | <ul style="list-style-type: none"> ・歩道部に透水性舗装を採用し、雨水を地下に還元するなどの環境にやさしい構造とする。 | | | | |
| (4)優先性 | <ul style="list-style-type: none"> ・当区間は小学校、幼稚園の通学路に指定されており、中学生も通学に利用しているが、歩道が未整備である上、小野尻トンネルの出入り口に当り縦断勾配がきつく自動車のスピードが出やすい区間であり、通学する児童生徒が非常に危険な状況にあり、歩道整備による歩車分離が必要である。 | | | | |